ふるさと稲作ほっとLINE　No.1

令和４年３月１６日

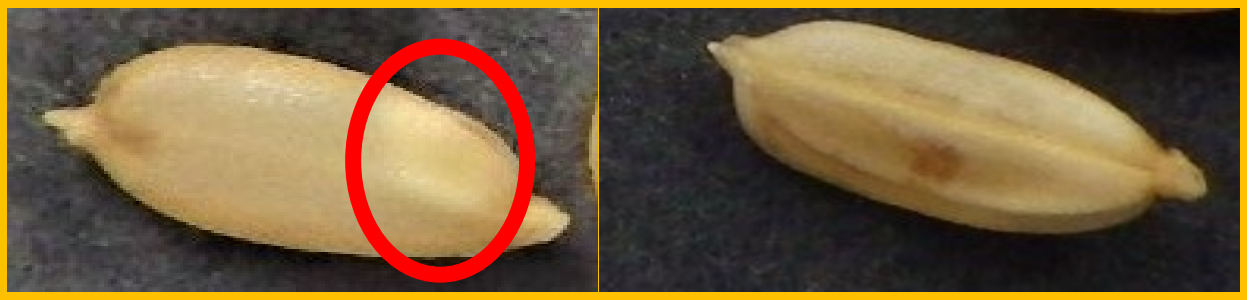
最初が肝心！浸種編

【目的①：出芽を揃えるための種子の休眠打破】
★重要★　消毒済み種子を浸種する最初の２日間は必ず10℃以上をキープする。10℃以上を保たないと種子が消毒液を吸収できる状態（休眠打破）にならない！日の当たらない場所で管理しましょう。

【目的②：病害の発生を抑えるため浸種時の水は清潔に！】
最初の２日が経過したら、2.3日おきに水を交換し、清潔な状態を保とう！（水を交換する際は種籾の上下を入れ替え、均一な温度管理に努めましょう。）

【目的③：出芽ムラを防ぐため積算温度と種子の状態を確認しよう！】
浸種は積算温度で100℃必要です。毎日の水温10℃以上を意識し、種籾の全体が透明でアメ色になったら浸種終了の目安！もし水温が5℃以下になる場合、再休眠が起こるためお湯を足すなど温度調節の工夫を！仕上げは下の写真の状態を確認しましょう！最適水温は催芽器12℃で８日間！

わかりにくいかもしれませんが左が浸種十分、右が浸種不足です。左側は全体的に透明で胚が見えますね！この状態を覚えておきましょう！



ご注意を！！
消毒済み種子を催芽器で浸種する場合、循環はしない！泡が発生し、水温ムラの原因となります！
催芽器を使用する場合は種籾の上下を入れ替えムラなく浸種しましょう！